

研究部だより

秋田県立栗田支援学校

研究部 第4号

令和5年12月25日発行

今回の研究部便りでは、12月11日（月）に行われた小学部の全校授業研究会について紹介します。学年・学部ごとのグループで話し合い、子どもの様子から「〇〇ではないか」「〇〇かもしれない」と、対象児童を丁寧に見取り、授業改善につなげていくことで、充実した協議会となりました。

| | |
|---------------|---|
| 12月11日 (月) | 小学部3年 生活単元学習 「パーティーをしよう⑤～クリスマスパーティー～」 |
| 学習内容 | 本単元では、ホットケーキ作りを取り入れながら、繰り返し行ってきた誕生日会やクリスマスパーティーを行う。これまでのホットケーキ作りで必要な材料や道具を準備し、大まかな手順が分かって自分でできる部分が増えてきた。そのためクリスマスパーティーでは、トッピングしたりジュースや会場の準備をしたりするなど、児童の得意なことを生かした係を設定し、役割分担してみんなでパーティーを楽しむ。 |
| 本時のねらい | ・映像や手順表、実物を見て自分のやること分かり、グループに分かれてホットケーキ作りやパーティーの準備をする。 |

児童Aの姿

1人に1つずつランチョンマットの上にフォークを置いた。

グループの解釈

- ・繰り返し活動してきたため、自分のやること分かっている。
- ・フォークの写真があったため、置く場所が分かったのだろう。



児童Bの姿

チョコスプレーがなかなか出ず、困っていたが教師に話し掛けられなかった。

グループの解釈

先生に声を掛けたいけれど、どう話したらいいか分からなかったのだろう。



授業改善に向けて

- ・児童からの発信を待ったり、困ったときの尋ね方やサインを決めておいたり、キーワードや選択肢を提示し選ぶことができるようにしたりする。
- ・自信をもって活動できている場面では、今ある支援を減らして、「考える」ような課題を設定する。

■指導助言■（特別支援教育課 指導主事 齊藤徹先生より）

- ・生活単元学習は各教科等を合わせた指導である。各教科の内容、特徴を踏まえながら創意工夫して行わなければならない。単元計画を作成する際には、各教科の見方・考え方をどう捉え、取り入れるのか検討してほしい。
- ・大切なのは友達や先生に、自分から関わり、自分の意思で主体的に活動することである。単元の中で繰り返しホットケーキを作ることで児童が見通しをもって自ら取り組んでおり、クリスマスパーティーをみんなで楽しみたい、協力しておいしいホットケーキを作りたいとの思いや願いが表れていたと思う。
- ・短い言葉掛け、視覚的な支援、個々に合った手順表、児童に合わせた自立活動における支援が効果的であった。各教科と各教科等を合わせた指導と自立活動を関連付けて行う必要がある。今一度振り返ってみてほしい。
- ・今回ペアでの活動であった。最後に動画で他の友達の様子を見て振り返る場面があったが、展開の中でも他の児童の様子を見てまねしたり、互いに頑張りを評価したりする場面があってもよかった。